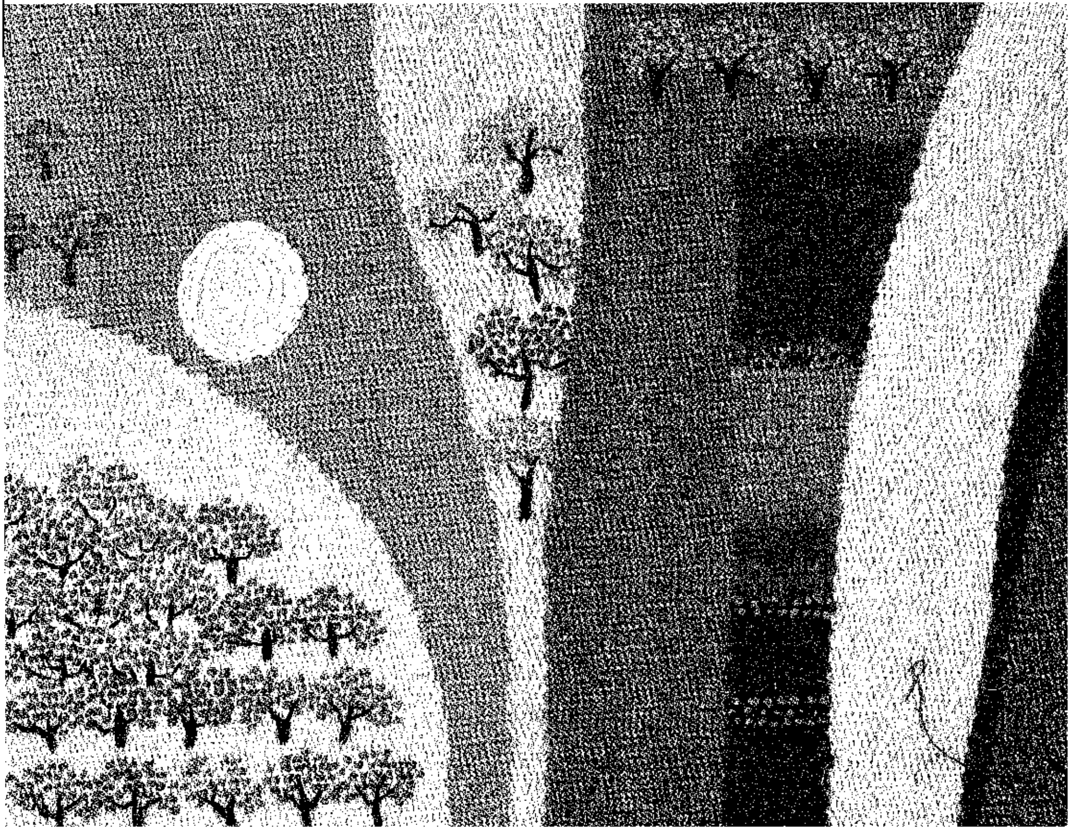
文部科学省検定済教科書
38光村
国語710
中学校国語科用

国語 1

光村図書



大仏様は「にっこり」しています

佐々木（ささき）瑞枝（みずえ）

ある初夏の日の午後、日本語クラスのあとで、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、カナダの学者や研究者たちと、電車で「①鎌倉（かまくら）散歩」に出かけた。

彼らは二か月間の予定で日本に滞在し、日本の学者たちと研究を進めていくのだ。日本語はまだまだだが、日本に対する知識はそうとうなものだ。わたしは、それぞれの専門分野で研究を進めている各国の研究者たちの、日本語と日本文化の先生。なんとも光栄な役割だ。

「今日はどんよりした日だから、午後雨になるかもしれませんね。かさを持っていきましょう。」

とわたし。

「どんより……、それはなんですか。」

と日本語表現に興味津々（しんしん）のジェニファーが質問してくる。

「どんよりはね、空に雲があって、いかにも雨が降りそうな様子。」

「そうですか。便利な言葉ですね。いつものイギリスの夏は、『どんより』です。でも今年は太陽がたくさんです。」

鎌倉で、街や海岸沿いを走り抜ける小さな郊外電車に乗り換える。長身の研究者たちの中には、電車の入り口のドアに頭をガツンとぶつけている人もいる。

「気をつけて。」

とわたし。電車の中でも会話は続く。

「先生、日本にいてよかった。ヨーロッパでは連日三十五度以上の猛暑だそうです。そういうときは『太陽が』のあと、なんといいますか。」

と百九十センチもある長身のモーリスが首をひょこ

んと曲げて、わたしに話しかける。周りにいる日本人の乗客もおもしろがって、わたしたちを見つめている。

「そういう場合は、『太陽がぎらぎら照りつけている』といいます。『ぎらぎら』は擬態語といって、物事の状態や様子を感覚的に表現することができるんですよ。また、犬の鳴き声『ワンワン』や雷の音『ゴロゴロ』などは音や声をまねて表した言葉で、擬声語といいます。」

「それは便利ですね。でも、わたしたちには意味を理解するのが難しい。」

「例えば英語にも、雄鶏(おんどり)の鳴き声をcock-a-doodle-doo（カッカドゥードゥルドゥー）のように表現する単語がありますよ。」

　鳥の鳴き声や猫の鳴き声などを表す言葉は外国語にも多い。同じ雄鶏の鳴き声でも、フランス語ではcocorico（ココリコ）、ドイツ語ではkikeriki（キケリキー）となる。雄鶏の鳴き声をどう聞き取るかは言語によっても違ってくるのだ。

長谷(はせ)に着いた。ここから大仏までは歩いて十分ほどの距離だ。

「ここのコンビニで買い物をしたい人はいますか。」

「はい。水を買っていきます。」

　クラークが手帳に片仮名を書きこんでいる。

「コンビニ、おもしろいですね。日本人は言葉を短くして表現するのが上手ですね。先生、ほかにどんな例がありますか。」

「そうですね。『ハイテク』[2]『ワープロ』[3]。日本語では仮名四文字にすることで発音しやすくしようとする意識が働くのでしょうね。最近は『デパ地下』などという新しい日本語も生まれている。これは『デパートの地下』の省略です。新語ができても、いつまでも使われるとは限らない。言葉にも命があります。『デパ地下』が『パソコン』のように、日本語の中に定着していくかどうかは、疑問ですが……。」

「『パソコン』はわかりにくいですね。最初、『パーソナル・コンピュータ』の省略だとはわかりませんでした。」

　とリチャードがうれしそうに言う。そう、英語が元

となった外来語の略語は、日本語を勉強している英語の話し手にとっても、意味がわかりにくいのだ。

大仏様のいらっしゃる④高徳院に着いた。

「わあ。先生、大仏さんがにこにこしています。」

とケリー。

「えっ、むすっとしています。」

とリチャード。みんなは「むすっ」と言ったときのリチャードの表情がおもしろかったのだろう。ゲラゲラ、クスクス、ワハハ、外国人研究者たちはさまざまな笑い方で、リチャードのゼスチャーにこたえる。確かに、受け取り方によって、大仏様の表情は違って見える。

「鎌倉の大仏様はかわいそうですね。家がありません。奈良の大仏様には立派な家があるのに。」

スーザンが、まるで大仏様が生きているかのように同情をこめて話す。その瞬間、大仏様がにっこりして見えたのは、わたしの錯覚だろうか。

「大仏が最初に作られた十三世紀の半ばには、大仏殿、つまり大仏様の家も作られたのですが、十五世紀の終わりごろに起きた大津波で、大仏殿が破壊され、その後はこうしてずっと、屋根がないのです。」

でも、わたしは自然の支配する中で、屋根に庇護されることなく、どっしりと座っている大仏様が好きだ。そういっている間に、ポツポツと雨が降りだした。

「あら、雨だわ。」

とわたしが言うと、リチャードがわたしのまねをしてのひらで雨を受けながら、

「あら、雨だわ。」

と言う。

「リチャード、あなたは男性だから『おや、雨だよ。』と言うほうが自然ですよ。『あら』も『――わ』も日本語では女性が使うことが多い表現だから。」

日本語の会話表現では、男女によって言葉が使い分けられる場合があり、外国人が日本語を覚える際の最も難しい点の一つになっている。もっとも、最近では、「――わ」は、男女による区別のない「ね・よ」に変化しているようだ。しかし、それにしても、急な雨だ。かさを持ってきてよかった。

わたしは先に立って、すたすたと歩いた。ポールは大きな体を揺すりながら、ドタドタとわたしのあ

とを追う。サンダル履きのスーザンはペタペタとちょっと歩きにくそう。モーリスは周りにいる日本人をかき分けて、のしのしという感じでわたしのあとを追う。次の目的地は長谷寺⑤(はせでら)だ。

長谷寺に着いた。長い石段を登ると、観音堂⑥(かんのんどう)、阿弥陀堂⑦(あみだどう)などが並ぶ。よく手入れされた境内には、花しょうぶ⑧が満開で、雨の中に薄紫の花が美しい。

「これが日本の『美』なのですね。」

とスーザンがうっとりとして言う。見晴らし台からは由比ガ浜⑨(ゆいがはま)海岸が見える。

海を見つめている外国人研究者たちの脳裏に去来しているのは、いったいなんだろうか。黒い雲が垂れこめた水平線の辺りに、一条の光が差しこんでいる。明日は晴れるかもしれない。

注

①鎌倉＝神奈川県南東部の市。史跡・社寺に富む。
②ハイテク＝ハイテクノロジーの略。
③ワープロ＝ワードプロセッサの略。
④高徳院＝鎌倉大仏と称される阿弥陀如来像のある浄土宗寺院。鎌倉市の長谷にある。
⑤長谷寺＝鎌倉市長谷にある浄土宗の寺。
⑥観音堂＝観世音菩薩の像を安置した堂。
⑦阿弥陀堂＝阿弥陀如来の像を安置した堂。
⑧花しょうぶ＝アヤメ科の多年草。初夏、白や紫の大きな花を咲かせる。
⑨由比ガ浜＝鎌倉市南東部の海岸。

筆者　佐々木瑞枝　一九四二（昭和一七）――
京都府出身。日本語教育学者。
著書　「外国語としての日本語」「女と男の日本語辞典」など。
出典　本書のための書きおろし。

【新出漢字】
179 擬（ギ）　模擬
180 施（シ・（セ）・ほどこす）　実施
184 滞（タイ・とどこおる）　滞納
184 郊（コウ）　近郊
187 猛（モウ）　猛犬
185 雷（ライ・かみなり）　雷雨
186 津（（シン）・つ）　津波
187 履（リ・はく）　履行
187 紫（シ・むらさき）　紫外線

【新出音訓】
187 境内（ケイダイ）
187 脳裏（ノウリ）

監修

樺島忠夫 大阪府立大学名誉教授
宮地裕 大阪大学名誉教授
渡辺実 京都大学名誉教授

編集委員

阿辻哲次 京都大学大学院教授
阿部昇 秋田大学教授
市毛勝雄 埼玉大学名誉教授
甲斐睦朗 前国立国語研究所所長
甲斐利恵子 東京都港区立御成門中学校教諭
上谷順三郎 鹿児島大学准教授
河合章男 光村図書出版株式会社編集部顧問
ドナルド・キーン コロンビア大学名誉教授
北川茂治 鹿児島国際大学教授
小森陽一 東京大学教授
斎賀秀夫 大妻女子大学名誉教授
佐藤洋一 愛知教育大学教授
神宮輝夫 青山学院大学名誉教授
高木まさき 横浜国立大学教授
高田宏 作家
高橋世織 東京工業大学特任教授
田中稔穂 元山口大学教授
田中牧郎 国立国語研究所言語問題グループ長
田中洋一 東京女子体育大学准教授
中西一弘 大阪教育大学名誉教授
中村桂子 生命誌研究館館長
中本環 前熊本大学教授
仁田義雄 大阪大学教授
藤森裕治 信州大学准教授
藤原宏 国語教育学者
松丸春生 朗読家
森山卓郎 京都教育大学教授
安居總子 元岐阜大学教授
安河内義己 前長崎大学教授

光村図書出版株式会社　編集部

名前

挿絵
浅倉田美子　添田あき　内藤貞夫　渋呂木陽
渡部洋士

写真
岩合写真事務所　岩手県花巻市役所
江戸東京博物館　Qフォト・インターナショナル
キリンビール　国立国会図書館
JALフォトサービス　静嘉堂文庫
生分解性プラスチック研究会
千葉県千葉市中央図書館　東京国立博物館
長岡博史　中村庸夫　日本近代文学館
ネイチャー・プロダクション　林義勝
PPS通信社　三菱重工業　明治製菓
メトロポリタン美術館

読書案内
あすなろ書房　岩波書店　偕成社　金の星社
講談社　小峰書店　さ・え・ら書房　新潮社
筑摩書房　中央公論新社　童話屋　徳間書店
日本放送出版協会　ブロンズ新社　文藝春秋
理論社

上原里佳　神戸万知　鈴木宏枝　横田順子

表紙
森麗子

アート・ディレクション／デザイン
図工室（設 啓典　近田宏生　堀ノ内達也）

国語 1

38光村　国語710

平成二十年二月一日印刷
平成二十年二月五日発行
（平成十七年三月三十日文部科学省検定済）

定価　文部科学大臣が認可して官報で告示した定価
（右記の定価は各教科書取次供給所に表示します。）

この教科書にもとづくワークブック・解説書ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

著作者　宮地裕（ほか三十二名別記）

発行者　光村図書出版株式会社
代表者　常田寛
東京都品川区上大崎二－十九－九

製版印刷者　協和オフセット印刷株式会社
代表者　鳴二汁大
東京都港区浜松町一－五－八

株式会社加藤文明社
代表者　加藤純男
東京都千代田区三崎町二－十五－六

発行所　光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎二－十九－九
電話（〇三）三四九三－二一一一（代）

ISBN4-89528-238-4